

2000年度

Block 2 テュートリアル課題

課題番号 1

血圧が高い



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

TWMU Block 2 循環器内科学教室

無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート 1

加藤さんは、65歳の女性です。風邪を引いて近所の医院を受診したところ、血圧が高いといわれて不安になりました。

シート 2

血圧のことなどあまり考えた事はありませんでしたが、そう言えば最近頭の後ろの方がズーンと重い感じになることが多いことに気づきました。血圧が高くなった原因は、もしかして心臓がうまく働かなくなったためかと思い、近所に住んでいる姪で医学生の恵子さんに相談したところ、「心臓はポンプだからむしろ被害者よ」と言われました。

恵子さんは、叔母さんの家にあった家庭用の血圧計を持ってきて血圧を測りました。マンシェットを右手上腕に巻きつけてスイッチを入れ、血圧が自動的に測定されるのを見ていました。しばらくして、血圧 158/98 といっしょに、脈拍 74 という表示が出ました。

恵子さんは叔母である加藤貴子さんを東京女子医大病院へ連れて行くことにしましたが、その前に自分で「病歴」をとって見て先生にお見せしようと思いました。しかしながら、あまりはっきりとした症状がないため、病歴は下記のように簡単なものとなりました。

患者： 加藤 貴子 65 歳、女性

主 訴： 後頭部痛

現病歴： 以前から時々後頭部に頭痛があったが、あまりひどくないので放置していた。最近風邪を引いて近医を受診したところ高血圧があるといわれ、精査・治療のため病院を受診することとした。

家族歴： 父；糖尿病、腎不全で死亡

母（83 歳）；高血圧、心臓病

既往歴： 特記すべきことなし

和子さんは、翌日（4月15日）加藤さんを東京女子医大の循環器内科外来に連れて行きました。自分で書いた病歴を初診外来担当の先生にお見せしたところ、先生は加藤さんに幾つか追加の質問をされました。

シート 4

先生のカルテには以下のような病歴が記載されていました。自分のとった病歴と比べると、いくつか注意しなくてはならない点があることに気づきました。

患者 : 加藤 貴子殿 65歳、女性

主 訴 : 頭の後ろの方がズシーンと重い感じ

現病歴 : 生来健康であった。約3ヶ月前(2000年1月上旬)から、朝起きて洗面や朝食の準備をしている時や昼間根を詰めて何か書き物をしている時などに、頭の後ろの方がズシーンと重い感じになることが週1-2回位みられた。この時何となく頭に霞がかかる感じはあったものの、嘔気や胸痛・背部痛などの随伴症状は無く、背伸びをしたり肩を回したりして1時間くらいで気にならなくなっていたため放置していた。

1週間前から、喉の痛みと咳が出るようになり、37度台の発熱と頭が全体にずきずきするような痛みが断続的に起こるようになったため、5日前にかかりつけの大澤内科医院を受診した。感冒と診断されて投薬を受け(内容不明)2-3日で症状は軽快したが、初診時に初めて血圧の上昇(154/102 mmHg)を指摘された。咽頭の軽度発赤以外には特に異常を指摘されなかったが、自宅で測定した血圧も158/98 mmHgと高値を示したため精査・治療を目的として当科外来を受診した。

家族歴 : 父 ; 糖尿病、腎不全で死亡(65歳)、母(83歳) ; 高血圧、狭心症(治療中)

既往歴 : 特記すべきことなし

職業歴 : 25歳まで事務系の会社員、結婚後は専業主婦をしている。

嗜好 : 喫煙なし、アルコールは週1-2回ビール350 ml程度

閉経 : 55歳

外来での診察所見は下記のようにでした。

診察所見（現症）：

身長 158 cm、体重 52 kg。脈拍 72/分、整。体温 36.4℃

血圧 上肢：右 154/98 mmHg、左 156/100mmHg 下肢：右 160/96 mmHg、左 160/98mmHg

貧血・黄疸なし。チアノーゼなし。頸静脈怒張・甲状腺腫なし。頸部に血管雑音なし。

心音： I、II 音正常で大動脈成分の亢進なし。過剰心音無し。

心雑音：収縮期駆出性雑音（Levine 1 度）を、第 3 肋間胸骨左縁を最強点として聴取する。

呼吸音は正常である。

腹部では肝・脾は触知せず血管雑音もなし。

下腿に浮腫なし。末梢動脈拍動に異常なし。

神経学的に異常を認めない。

心雑音のことが少し気になりましたが、先生は心配ないでしょうとおっしゃいました。診察の後、胸部エックス線単純写真（異常無しとのことであった）と心電図検査を受けました。

心電図：図（供覧）

検査の後に、叔母さんから心電図の時にどうしてあちこちにたくさん電極を付けるのか質問されました。

シート 6

先生は、叔母さんに向かって「高血圧の患者さんはあまり症状が無いことが多いのですが、サイレント・キラーと呼ばれていて、あまり軽く見てはいけません。」とおっしゃいました。これを聞いた恵子さんがきょんとしていると、「高血圧を放っておくとどうなるか考えてごらん？」と質問されました。

今後の治療方針をきめるために、1日の血圧を測ることになり、携帯用の自動記録血圧計を装着しました。その日の行動を詳しく記録するようにいわれました。

1週間後、検査結果を説明されました。血液や尿、胸部のエックス線写真、心電図は異常なく、高血圧を起こす特別な病気もなさそうとのことでした。ただ、今朝家で測った血圧は142/90mmHgであったのに、病院では156/96mmHgと高くなっていました。恵子さんは家の血圧計が不正確なのでは？と思いましたが、先生は私の白衣のせいでしょうとおっしゃいました。

24時間の血圧測定の結果はグラフ（供覧）になっていました。

先生から、まず2ヶ月間薬なしで、食事、運動など一般療法でやってみましょうと言われ、詳しい指導を受けました。恵子さんは、もし叔母さんが薬を飲まなくてはならなかったらこれは一生のことなのかな？と思いました。